

発掘調査の概要

藤原宮朝堂院朝庭の調査(飛鳥藤原第174次)

2012年4月2日より、藤原宮朝堂院朝庭の発掘調査を実施しています。6月末までの状況は前号で報告しましたので、以下では7月以降9月末までの概況をのべてみたいと思います。

本調査区の総面積は1,850㎡あり、その全面に^{れき}礫敷の広場を検出しました。7月以降は調査区の南3分の1ほどの部分の礫敷を除去し、下層の状況を調査しました。

礫敷の下には、朝庭部分を造営する際に大規模な整地をしています。整地は旧地形をならす目的の第一次整地、朝庭の本格的な整備にともなう第二次整地、礫敷広場を整備する直前に施した最終整地です。

第二次整地土を段階的に掘り下げていくと、掘立柱建物、柱列、溝、土坑等が検出されました。掘立柱建物は調査区の西南部分に集中し、昨年(2011年)の第169次調査で検出した建物と近接しています。調査区の東南部分は建物が希薄で南北方向の柱列が数条みつけられました。そのほか、直径が2.6m、深さも1mをこえる大きな土坑があり、中からは朝堂等に使用された軒瓦が出土しました。

これらの遺構のほとんどは第二次整地土にともなうもので、藤原宮造営期の遺構と考えられます。

また、調査区の北半分の礫敷を一部除去し調査を進めたところ、従来の調査で確認されていた沼状遺構の南端を検出しました。これによって、沼状遺構の規模は南北50mほどと判明しました。ただし、この遺構の性格は未だ不明といわざるを得ません。

発掘調査は10月以降も継続します。今後の展開にご期待ください。(都城発掘調査部 今井 晃樹)



下層遺構の検出状況(北西から)